

生ましませしは我帝國は云はずもかな世界全人類
に取りて何等の幸ぞや。さらば吾々青年は聖誕七
百年を朴し決然として立ち意志を堅固に持ち荒海
と一大苦闘を試み聖願たる「一天四海皆歸妙法」
の實を擧げられん事を!!

身延の夕暮

高崎 一 二

町から山、山から谷、溪から町、霧で一つばい
である下の方から馬車の笛の音が淋しく聞えてく
る。霧の中からふひに馬車馬の頭が浮かんだかと
思ふと又消えて車の響が残つた霧から霧へ人馬が
往來してゐる。

身延驛の方から汽笛が立ちこもる霧にしめつて
悲しく聞へてくる。

邊りはまるで灰色の海に漬かつて仕舞い土産館
のイルミネーションは薄い雲につままれてゐる。
暮合の鐘は淋しく餘韻をひいて峰へ〜と廻ぐ

つて行く弱々しく吹く風は恰も天女のかなでる微
妙の音樂の如く單調な自分の腦中に響いた。
霧は段々と富士川の方に流れて行く、半弦の月
は鷹取の山上にかゝり立ちこめる霧の間に間に淡
い光を放つてゐる、四顧寂莫たり唱題修行の法鼓
の音静けさを破つて聞えてくる手に持つ灯燈に火
を點けて淋しい山道を余は歸路についた。

偶感

井無田壽水

舉世滔々與道違
風教墜地不知非
頽波砥柱今誰在
天下蒼生安適歸

留學生及び卒業生

前年度泉義敬師が宗學研究の爲め日蓮宗大學に
松木本興師が臺學研究の爲天臺宗大學に留學を命